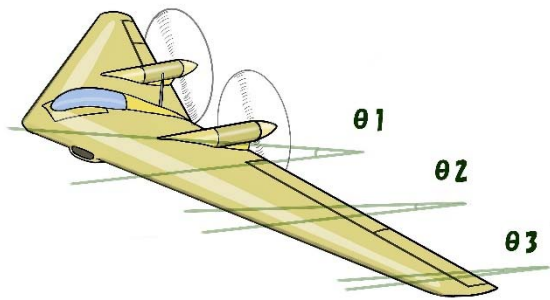


～ノースロップ N-9M 全翼機



[ノースロップの前作 N-1M と ↓]



本機、ノースロップ N-9M は、ジャック・ノースロップが N-1M に続いて製作した全翼機(Flying wing)です(N-1M と N-9M との間に、N-2、N-3、…があったわけではない。また最後の M も model の略で大きな意味はない)。さて、この N-9M はとても美しいフォルムを有し、後日、製作されたノースロップ XB-35 や YB-49 の実証実験機的な役割も担いました。厚みも N-1M に比べて薄くなり、速度も時速 415km が出たようです。方向制御は、翼端が下に折れ曲がった N-1M の構造とは異なり、エルロンが上下に開く、スプリットラダーの抵抗により行っていました。ただ、基礎的な形態は、N-1M と変わらず、上記イラストに示したように、胴体中央から翼端に向けての迎角 θ が中央の $\theta 1$ から翼端の $\theta 3$ に向かって徐々に小さくなるように設計されていますので、後方から見ると、XP-56 を含めてノースロップ全翼機の印象はどこか似ています。なお、またアニメの話で恐縮ですが、『新世紀エヴァンゲリオン』にも全翼機(U4002-01)が登場しており、この機体に似ています。

【模型について】

チェコの CMR1/72 のレジんキットです。単座ですが思いのほか大きな機体で、一体成型されたレジんの胴体はとても重かったですw。ともすると、のっぺりしそうな表面ですが、このキットはキャノピー周りや排気口などメリハリが付けてあって、黄色の単色塗装ではありますが、単調にならないところが良いキットでした。

(中川裕幸 2022年3月)